

## 第 104 回薬剤師国家試験過去問題集(演習型解説書)訂正表 (第 1 版)

2023 年 11 月 20 日現在

誠に申し訳ございませんが、以下の箇所の訂正をお願い申し上げます。

## ◇必須問題◇

ページ	問番号	箇所	訂正前	訂正後
34	関連問題	問題 2 解答	×	○

## ◇理論問題◇

ページ	問番号	箇所	訂正前	訂正後
106	91	問題文 1 行目	0.100 mol 水酸化ナトリウム	0.100 mol/L 水酸化ナトリウム
		問題文 3 行目	$\log 3 = 0.47$	$\log 3 = 0.477$
126	100	選択肢 4 解説文	EDTA はカルシウムイオンの定量分析に用いられるが、その際、EDTA の蛍光特性が変化するわけではない。水道水の硬度試験法に EDTA による滴定法（エリオクロムブラック T 法）がある。（中略）これにより、 $\text{Ca}^{2+}$ の定量分析ができるが、その際、EDTA 自体はキレート試薬として用いられており、カルシウムイオンとの配位結合形成により蛍光特性が変化しているのは EBT である。	EDTA はカルシウムイオンの定量分析に用いられるが、その際、EDTA の蛍光特性が変化するわけではない。カルシウムイオンとの配位結合形成により蛍光特性が変化するため、 $\text{Ca}^{2+}$ の定量分析に用いられる試薬として Fura-2 が挙げられる。Fura-2 は $\text{Ca}^{2+}$ キレート剤と発蛍光団を組合せた構造をもつ化合物で、 $\text{Ca}^{2+}$ と結合することで励起スペクトルの短波長シフトが起こる。これにより、Fura-2 は細胞内 $\text{Ca}^{2+}$ の変化測定に用いられる。
188	128	問題 4 解説文	代表例として、アゾ基やニトロ基の還元反応があげられる。	代表例として、還元的脱ハロゲン化反応があげられる。

◇実践問題◇

ページ	問番号	箇所	訂正前	訂正後
373	関連問題	解説文 (朱書) 3行目 構造E の名称	3,4-ジヒドロキシフェニルアセト アルデヒド	3,4-ジヒドロキシフェニル酢酸
		選択肢b 解説文 2行目	3,4-ジヒドロキシフェニルアセト アルデヒド	3,4-ジヒドロキシフェニル酢酸
437	関連問題	問題1 解説 1行目	低K <sup>+</sup> 血症	高K <sup>+</sup> 血症
448	関連問題	解答	d	e